

# DEBUT 首長

広島県庄原市長 木山 耕三氏

## 「産業」「安心」「にぎわい」柱に 「庄原いちばん」で若者呼び込み

**庄原市** 広島県北東部に位置し人口約3万9000人。東は岡山県、北は島根県、鳥取県に隣接。中国山地に囲まれ基幹産業は農林業。

——4月の市長就任後、市政運営で感じることは。

問題は人が少なくなっていること。会社も減り、街の活力も失われてくる。そうすると若い人は魅力を感じなくなり都市へ流出する。広島県で1番広い庄原市だが、人が少ない。人口の減少数は年間約600人で、そのうち社会減が約150人だ。高齢化率は約38%で2年後には4割に達するだろう。だから都会からいかに人を連れてくるかが重要で、魅力を訴えるしかない。広島県は「おいしい!広島県」をキャッチフレーズにしているが、庄原市は「欲しい!若者」がテーマだと思っている。

——魅力をどう打ち出す。

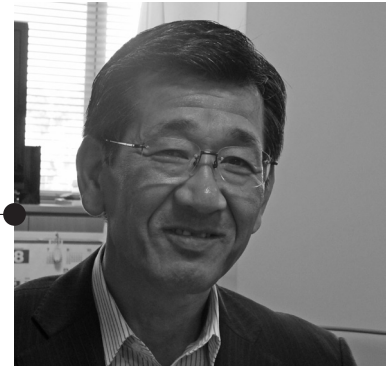
選挙期間中から「庄原いちばん」を訴えてきた。「いちばん」と言っても具体的に他と比べて順番が1番になると言っているのではない。庄原を「いち

ばん良いところ」と思ってもらい、「行ってみようかな」という気持ちになってもらう心の「いちばん」をめざす発想だ。

市長就任後、3つのいちばん作りに着手した。「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」だ。農業、林業の基幹産業に力を注ぎ、地域の力を蘇らせたい。高齢化が進んでいるが、長生きは良いことだ。安心して暮らせる地域を作っていきたい。にぎわい作りは観光から始めたい。この地域は文化財もあるので、これらを蘇らせて、そこへ人が集うように、そこへものが売れるような仕組みを作りたい。

——PRが足りない。

庄原は1市6町が合併、自然や観光資源は豊富だ。有名な観光地では帝釈峡がある。神楽のような伝統行事、特色ある祭りもある。ただ観光客数は2012年度に227万人と6年前の271万人から減っている。地域のブランド化も重要だ。庄原は広島の米の一大産地で庄原米は大阪のコンテストで2年連続で1位になった。牛は現在、広島牛と呼んでいるが、かつて「比婆



きやま・こうぞう 1954年生まれ。日本大学経済学部卒。1995年4月広島県議会議員に初当選、以後3期12年県議を務める。会社役員を経て2013年4月の市長選に初当選。59歳。

牛」で売り出された。このブランドを復活させるか検討中だ。

道の駅での発信にも力を入れる。高速道路「尾道松江線」のインターチェンジ近くに道の駅を作っている。道の駅を玄関口として、地域の情報を発信し、域内を周遊してもらいたい。

——総合計画を見直す。

合併時に15年度までの10年間の総合計画が策定された。これを来年から見直す。「産業」「安心」「にぎわい」を柱に活力を取り戻し、市の一体感を醸成したい。8月から、まちづくりプランナー・モニター事業を始めた。市民に登録してもらい、インターネットで政策提案をしたり、施策への評価をしてもらうものだ。

庄原市の財政力は市として県内最下位だ。ただ、行革などで好転している。福祉を手厚くしているので財政的に厳しい面はあるが、福祉は大きな柱。これからは他自治体の先行事例となるよう取り組みたい。

(聞き手は編集長 野間 清尚)